

二刀流 銀行員



FFGグループ行員の
趣味・特技を紹介するコーナー

池田 修平

「バイオリン奏者」



福岡中央銀行



バイオリン奏者の 顔を持つ銀行員

普段は銀行員として福岡中央銀行雑餉隈支店で働いている池田修平さん。週末はバイオリン奏者としての顔を持つ。池田さんとバイオリンとの出会いは意外にも遅く「大学でオーケストラ部に入ったのがきっかけです」と話す。

出身は果物の産地で知られる福岡県うきは市。自然豊かな環境で生まれ育ち、中学校はテニス部、高校は弓道部で、クラシック音楽とは無縁の学生生活を送っていた。

楽器を弾く楽しさに目覚めたのは高校生の時だった。「家にあった父のギターを見つけました。ほこりをおぼつてずっと使われていませんでした。が、試しに音を鳴らすと楽しくて。ネットもあり普及していない時代に、見様見真似で当時流行っていたロックの曲を弾いていました」

大学は福岡大学商学部へ進学。「今までと違うことがやってみたいい！」という思いから、大学オーケス



トラに入部した。

「福岡大学交響楽団は1969年に発足した福岡大学の学生を中心としたオーケストラです。多くの学部や学科から個性豊かなメンバーが集まります。当時の団員数は約50名で、高校で吹奏楽をしていた人が管楽器を受け持つパターンが多く、自分のような楽器初心者は少数派でした」

池田さんが選んだ楽器はバイオリンだった。「楽譜の勉強から始めて、ほぼ毎日バイオリンを弾いていました。家で練習するのは難しかったので、い

つも大学の施設で夜遅くまで練習していました」

努力の甲斐あって大学3年時には、オーケストラのコンサートマスター（指揮者と連携し、楽団員の代理や首席奏者として、演奏の進行を確認する役割）を務めるまでに成長した。

オーケストラ部では、毎年12月、「アクロス福岡 福岡シンフォニーホール」で定期演奏会を開催する。「普段は和気あいあいとした部ですが、演奏会前はみんなピリピリします（笑）演奏会終了後の満足感は何ものにも代えがたいですね」

も代えがたいですね」

池田さんはオーケストラの醍醐味について「他の人と音を合わせる掛けた算の良さがあります。同じパートの人と音がぴったり合わさったときは本当に楽しいです」と語る。

社会人になっても 広がり続ける音楽の輪

大学を卒業し、福岡中央銀行に入行後もバイオリンを続けた。「コロナ禍で演奏会がない時期が続きましたが、その間も練習は続けていました」

現在、特定のオーケストラには所属していないものの、市民オーケストラの「糸島フィルハーモニー管弦楽団」への賛助や、プロジェクトオーケストラ「紫苑フィルハーモニー管弦楽団」などの演奏会に参加している。最近ではオーケストラだけでなく、弦楽四重奏の依頼も増えてきた。

「弦楽四重奏アンサンブル コモド」に参加し、地域イベントで演奏しています。弦楽四重奏はイベントで呼ばれることが多く、活動範囲が広がり



IKEDA Shuhei

1995年6月17日生まれ、現在29歳。福岡県うきは市出身。大学時代、福岡大学交響楽団に所属しバイオリンを担当。2018年、福岡中央銀行に入学し、久留米支店、大橋支店を経て、現在は雑餉隈支店に勤務する。総合営業を担当。銀行員になっても音楽活動を継続し、オーケストラや弦楽四重奏などでバイオリン演奏に励んでいる。

弦楽四重奏「アンサンブル コモド」。イベント演奏の様子。右端が池田さん



2024年11月、アクロス福岡 福岡シンフォニーホールで行われた「紫苑フィルハーモニー管弦楽団」演奏会

ます。イベントでは音楽に親しんでもらいやすいようポップスも演奏します。最近の曲は転調するものが多く、そもそも弦楽器用に作られていないので弾くのが難しいです」

演奏者として、弾いていて楽しい曲について尋ねると、「チャイコフスキーの花のワルツは弾くのも聴くのも好きです。演奏者あるあるですが、流行の曲を聴くよりも、次に演奏する曲をひたすら聴いていることが多いです(笑)」と笑顔で答える。

個人練習には、楽器練習可能な力

ラオケ店や、公共施設の練習室などを利用している。

社会人になってから、音楽への思いには変化があっただろうか。

「バイオリンを始めるまでは、クラシック音楽に対して眠くなる印象を持っていました。しかし、演奏するために作曲家や曲の背景を紐解いていくうちに、その印象はまったく変わりました。将来的には、クラシックに全く興味の無い人にも、その魅力を伝えるような弦楽四重奏イベントなどを企画していきたいですね」



福岡中央銀行 雑餉隈支店
住所／福岡市博多区竹丘町2丁目1-5



前列左2人目から池田さん、永田支店長



お客さまと会話する池田さん